

AAP

# 現地情報や課題発信

## アジア生産でシンポジウム

アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は12日、東京都港区のメルパルク東京で、設立7周年を記念し「アジアのアパレル生産新時代を担う」をテーマに、シンポジウムを開いた。AAP会員のアジアに広がった生産の現状を紹介するとともに、各国の課題や展望を発表。縫製工場の情報交換会から外部への発信を試みるAAPの第一弾イベントとなった。



260人の席は満席

第一部では、日本貿易・小林恵介海外調査部アジア振興機構(シエトロ)のア太平洋課課長代理が「チャイナ・プラスワンの現状とこれからの課題」と題して基調講演した。アセアン経済共同体(AEC)が2015年末に発足して「域内の関税はほぼなくなった」と報告。しかし、域内貿易量はほぼ変わらず、域内輸入はむしろ低下した。中国からの輸出・輸入が増大し、中国依存度が鮮明になった。

チャイナ・プラスワンの関心が高い。ベトナムへの繊維産業は、繊維原料を中国中心に東アジアから輸入し、衣類は米国(14年で約98億ドル)を中心に日本(約24億ドル)、韓国(約20億ドル)などに輸出する。繊維原料が現地生産化され、輸出も増加している。欧州連合(EU)・ベトナム自由貿易協定(EFTA)は合意され、各国で批准手続きが始まっている。「発効されれば、繊維製品は42%が即

各国の問題点とメリット(AAP調べ)

ベトナム	カンボジア	ミャンマー	バングラデシュ	インドネシア	ラオス
残業時間が30時間に限定	中国・韓国勢が強く日系の進出が困難	外国投資法がいまだに整備されず	外資の独資進出が難しい	特恵関税の適用なし	人口が少なく生産体制の構築に時間を要する
南沙諸島を巡る中越対立の長期化で貿易・人的交流に障害	労働争議は2014年前年比25%減	ミャンマー人のパートナー選びは困難	優良合併相手を見つけないことが困難	週労働時間40時間制による労働コスト増	東西回廊整備でベトナムの港利用
比較的短サイクル生産のメリットあり	最低賃金28%アップを嫌い、見合わせの動きあり	停電が多く、自家発電コスト負担大	成果給、能力給が定着しにくく労働力が減給が難しい	地方、中部ジャワに進出メリットあり	
高付加価値品に活路あり	バリエーションの多い労働者への人口流入	土地、建物の高コスト	現地幹部のスキルが不足	素材調達先として注目、できればBPA適用	
		最低賃金が高額で工場撤退の動き	土地、建物が高い		

時撤廃、残りは7年で撤廃」となり、「ベトナムに」としてメリットは大きい」とみる。

諸手当や社会保障費、残業代を含めた年間実負担額はインドネシアが513ドル、フィリピンが4056ドル、ベトナムが4025ドル、インドが3771ドル、カンボジアが2376ドル、ラオス2325ドル、ミャンマー2167ドル、バングラデシュ2042ドルと紹介した。

第2部では共通質問に

AAP会員企業が答える形をとった。工場を取り巻く環境変化では「ベトナムの最低賃金は11年の月50ドルが今は114ドルに。周囲に工場ができ、話尻所を設けるなど人集めに工夫を凝らす」(湯峰ソウイング)。

「ラオスの最低賃金は11年の月70ドルから90ドルに上昇。人口が700万人なので人が集まらない。受注は郊外型専門店や量販店から切れ間なくある。生産性は中国の7割くらい」(サンテイ)。カンボジアは「月41ドルの最低賃金が153ドルになった。12年ごろは人が集まらなかったが、今はロコモで集まる。受注量も増加、中国の7~8割の生産性(ロックス)になった。インドネシアは「13年の月額最低賃金90ドルが139ドルに上昇。人は募集すると多く集まりすぎて困るくらい。生産性は中国の7~8割」(サンエヌ)という。ミャンマーでは「ドル換算で一般業は97ドル、幹部には202ドル支払う。労働力はあ

るがその質の低下を懸念。生産性は中国と比べ6割くらい」(小島衣料)。

バングラデシュは「給与は月117ドル。定着率は高い。労働力も選べる環境が続く。当初は量販店向けが多かったが、婦人服OEMや専門店の受注が増えている。生産性は中国の8割くらい」(丸)